



ナゴヤドーム前キャンパス

「今度はわたしたちがもてなしたい」と言ってくれています。こういう学生たちの力も借りながら、大学として大会を盛り上げていきます。

計画しています。会場となるナゴヤドーム前キャンパスは、3年前にオープンしたばかりの新しいキャンパスです。キャンパス内にはイベントやパーティー開催に適した素敵なレストランがありますので、そこでパンケットをする予定です。和のおもてなしとして、茶道部によるお点前の披露や筆曲部による琴演奏などを考えています。

また、昨年度「名城大学チャレンジ支援プログラム」に参加した学生たちは、

現地でお世話になった先生や大学院生たちがこの大会に出席することを知って、

「今度はわたしたちがもてなしたい」と言ってくれています。

こういう学生たちの力も借りながら、大学として大会を盛り上げていきます。

理工学部 情報工学科
准教授 博士(工学)

川澄 未来子氏



日本で初めての「アジア色彩学会」が、11月に名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで開かれる。アジア各国の色彩研究者たちが集うこの大会で、実行委員長を務めることになった理工学部准教授の川澄未来子氏。国内外で活躍する感性工学のスペシャリストだ。

名城大学で開催される「アジア色彩学会」の内容を教えてください。

日本、中国、韓国、台湾、インドネシア、タイなどの色彩やデザインの研究者たちが参加する色彩学の国際大会です。色覚・生理、色光・色材、色彩情報、コスメティクス、ファッション、色彩環境など、色彩に関する研究が発表されます。

学会は11月29日から4日間。初日の夕方から受付をはじめ、2、3日目に研究・作品発表。最終日はエクスカージョン（体験型の見学会）です。参加者は200名ほどを予定しています。

研究発表のほか、専門家による講演を予定しています。講演はどなたでも聴講できる時間帯も作りますので、色彩に興味のある方や地元企業の方にも来ていただけたらと思っています。

実行委員長になられた経緯は？

世界中の研究者が一堂に会する「国際色彩学会」という大会があるのですが、その会長だった方からお話をいただきました。わたしは2014年4月から在外研究員として1年間タイに滞在したのですが、じつはそこでお世話になった方です。

アジア色彩学会は、タイの研究者や大学院生もたくさん参加しますから、タイへの恩返しの意味も込めてお引き受けしました。

アジア地域の色彩学研究者たちの学術レベルが向上し、ネットワークが強化されれば、他の地域では見られない新しい取り組みができるかもしれません。実行委員長として、とくに若手研究者が交流したり発表したりしやすいようにサポートするつもりです。

日本初となるアジア色彩学会を開くにあたり、日本ならではの特別なことを準備するのですか？

愛知県や名古屋商工会議所の後援をいただき、この地ならではの産業振興にもつなげたいと思い、自動車や機械工業にも役立つ測色セミナーや、企業出展コーナーも

計画しています。

会場となるナゴヤドーム前キャンパスは、3年前にオープンしたばかりの新しいキャンパスです。キャンパス内にはイベントやパーティー開催に適した素敵なレストランがありますので、そこでパンケットをする予定です。和のおもてなしとして、茶道部によるお点前の披露や筆曲部による琴演奏などを考えています。

また、昨年度「名城大学チャレンジ支援プログラム」に参加した学生たちは、

現地でお世話になった先生や大学院生たちがこの大会に出席することを知って、

「今度はわたしたちがもてなしたい」と言ってくれています。

こういう学生たちの力も借りながら、大学として大会を盛り上げていきます。

先生の経歴と専門分野を教えてください。

津田塾大学学芸学部数学科を卒業後、豊田中央研究所に入社しました。そこで視覚・色覚系の感性情報処理の研究に携わり、ヨーロッパの高級車に負けない質感を持つ塗装材や内装材の研究に取り組みました。博士の学位はこれらの研究をまとめて、東京工業大学総合理工学研究科にて取得しました。豊田中研で12年働いたあと、愛知淑徳大学に移り、それから名城大学でお世話になっています。専門は感性工学です。

感性工学というのは？

「人間の感性やイメージを物理的なデザイン要素に翻訳して感性に合った商品やデザインを設計するテクノロジー」と定義されています。人の感覚や感性をモノづくりに活かす。製品の機能性や効率性に加え、使いやすさや心地よさなど、人の心に響く魅力や科学的に組み込む。それが感性工学です。感性工学が成立したのは30年ほど前で、比較的新しい分野です。



その解析手法や応用研究は、自動車、家電、住宅、食品など、さまざまな産業分野で盛んに進められています。

MEIJO CHALLENGERS

名城大学チャレンジ支援プログラム(オナーズプログラム)

名城大学チャレンジ支援プログラムは、学生に学びと成長する機会を提供する正課外のプログラム。グローバル化や情報化が急速に進むなか、主体性のある学生の育成を目的に2018年度後期からスタートした。スーパーバイザーは池上彰教授。

このプログラムを通して、時代感覚と、「グローバル」「キャリア」「リーダーシップ&連携・協働」という3つのマインドを養う。

2018年度の参加学生は35名。成績上位で、チャレンジ精神のある1年生33名、課外活動で顕著な実績をあげた2年生2名を7学部から選抜した。

選ばれた学生は10月からセミナーの受講を開始し、春休みを利用して2週間程度の海外研修を行った。渡航先はアメリカ・シリ

コンパレーと東南アジア。それぞれに分けて実施した。

川澄准教授は東南アジアの研修を担当。ミャンマーとタイを訪問。学生たちはローカル企業や日系企業を見学し、3日間のインターンシップでは生活習慣や宗教、時間

や金銭感覚の異なるタイの人たちと一っしょに働く体験をした。

また、現地の大学を訪問し、英語でプレゼンテーションを行うとともに、学生どうしの交流を深めた。

予測不可能な時代に挑め。



タイの企業でのインターンシップ



インターンシップ先・TT FTS(タイ)の社長は名城大学卒業生

具体的には、どういった研究になるのでしょうか？

自動車の関連で言いますと、内装や外装をどういうデザインにすれば「上質さ」とか「スポーティさ」を感じられるか。あるいは、ドアを閉めた時の「バタン」という音に「重厚感」をもたせるにはどうしたら良いか。シートの手触りを「心地よい」ものにするにはどうするか。そういったことを科学的に研究します。

わたしの場合、感性構造の国際比較にも取り組んでいて、アセアンの国々を対象にした調査をしています。



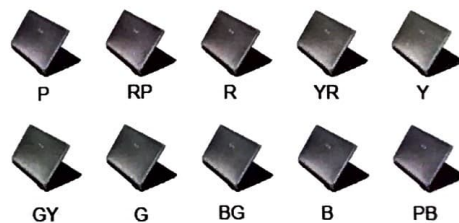
どのような調査ですか？

最近ではシルバーメタリック製品について、日本人とタイ人の色彩条件を比較しています。

シルバーメタリック塗装は、冷蔵庫やスマートフォン、カメラなど、いろいろな製品に施されています。しかし、その色合いや質感は製品ごとに微妙に違います。

色調を10段階で調整した製品画像を用意し、どの色が「清潔」「上質」「スタイリッシュ」などの印象を与えるかを調べたのです。

結果を日本とタイで比較してみたいところ、たとえば、日本人が「落ち着き」を感じるのは黄赤系のメタリック製品で、タイ人がそう感じるのには青緑系のメタリック製品

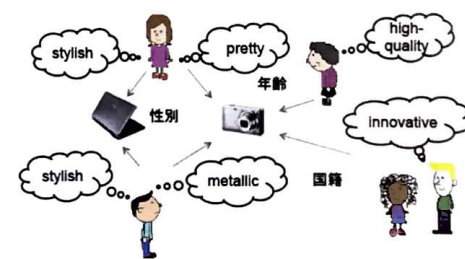


だということが明らかになりました。また、質感に関しては、日本人はつや消し加工されたものを、タイ人は光沢のあるビカビカなもの好む傾向が表れました。

国ごとに好みが分かれるのです。

感性は、性別や年代によって異なりますが、国籍の違いも大きく影響します。

近年、アセアンの市場が拡大し、数多くの日本企業がタイやベト



ナム、インドネシアなどに進出しています。

これまでは、日本国内で企画・設計し、現地で製造するというのが主流でしたが、これからは、それぞれ地域の感性に適った製品を現地で企画・設計するという動きが加速すると予想されます。

シルバーメタリック製品の調査も、国に応じた魅力的な製品づくりをするために行った研究の一環なのです。

川澄准教授の タイ滞在体験記

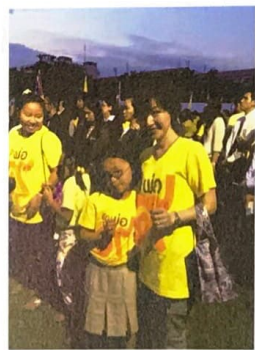
2014年から在外研究員として、タイに1年間滞在した川澄准教授。
日本では考えられないような驚きの連続で世界観が変わった。



ワット・プラノム

五感を研ぎ澄ます

川澄准教授が滞在した街は、バンコク郊外のタニヤブリ。ここでは五感を意識することが多かったという。日本と文化の違いでは、たとえば、クルマを運転するときの感覚も異なるため、運転中は五感を研ぎ澄まして周囲の動きを察知するようにしていた。日本ではおおよそ考えられないような走り方のクルマも結構あったからだ。また、気候が一年中夏なので、日本にくらべ食べ物が傷みやすい。調理する前には、かならず状態を自分の舌で確かめた。



王様の誕生日(曜日カラー 黄色)

自分自身で判断しなければ、事故に遭うかもしれない、お腹を壊すかもしれない。そういう

日常を過ごしていると、本来、人に備わっている五感が研ぎ澄まされてくる。なんだか人間らしくなったような気がしたという。

ありのままのタイ人

そんな環境で生活しているタイの人は、イレギュラーな出来事に臨機応変に対応できる人が多い。日本人ならば、上司の判断を仰いだり、マニュアルを確認したりするようなことでも、その場で即決する。また、LGBTも理解があり、同性婚も多い。



アユタヤ



庭に実るマンゴー



住んでいたレンタルハウス



ラジャマンガラ工科大学タニヤブリ校での名城大学タイオフィス開所式

生き方に対して「こうあらねばならない」という意識の強い日本人とは違い、ありのままを受け入れる寛容性を持っている。だから、追いつめられるようなことも少ない。

こうしたことを目の当たりにした川澄准教授。「世界観が変わった」と述べている。

曜日を大切に

タイには「曜日カラー」というものがあり、仏教の考え方に基づき、それぞれの曜日の色が決まっている。ホテルのカウンターにその日の曜日の色のキャ

ンディが置かれていたり、ユニフォームを曜日カラーで統一する高齢者施設があったりと、タイは曜日カラーに溢れている。

誕生曜日の色はラッキーカラー、その色のものを身につけると幸運をもたらすとされている。タイの人は自分の生まれた日の曜日をとても大切にする。

曜日ごとに違うのは色だけではなく。タイの仏像は、曜日ごとに姿が違う。立像や座像、寝ている像などさまざま。寺院にはすべての曜日の仏像が並んでおり、お参りのときは自分の生まれ曜日の仏像を

拝むという。



火曜日の高齢者施設(曜日カラー ピンク)

タイの曜日カラー

日	月	火	水	木	金	土
赤	黄	白	緑	黒	青	紫

水曜日のみ午前、午後でわかれる